對戰車火器ニ關スル意見

一瀬大佐

一、對戰車砲威力增大ノ必要

戰車ヲ輕量大速度トスヘキカ、速度ヲ犧牲トシテモ裝甲堅牢ナ大重量ノモノトスヘキカト云フコトニ就テハ由來各国テ論議セラレ其ノ主張ニモ変遷ハアルケレトモ要スルニ輕、中、重ノ各戰車ハ各々其ノ特長ヲ有シテヰテ夫々ノ任務達成ノ為ニハ不可欠ノモノテアルカラ何レノ主張カ優勢テアラウトモ其ノ何レモカ消滅シ去ルコトハナイテアラウ　執レニセヨ戰車カ其ノ任務ヲ達成センカタメ卽チ障碍物ノ蹂躙、遠距離テモ其ノ固有ノ强力ナ火器ヲ以テ有ユル敵火器特ニ對戰車砲及敵戰車ヲ制圧シ且我カ歩兵ノ前進ヲ防害スル敵火器ノ殲滅ヲ期スル為速度裝甲ニ於テ改善セラルルノミナラス武裝ニ於テモ强力化セラレテ行クコトハ明カテアル

從ツテ戰車ヲ目標トスル對戰車砲トシテハ發射速度ノ增大モ必要テ

0898

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

アルガ鋼板貫徹威力及破壊威力ノ増大ヲ必要トスルノテアル

二、對戰車火器增强ノ必要

對戰車防禦ノ為ニハ其ノ戰況ニ許シ得ル総テノ火器ヲ以テ當ラナケレハナラナイデアラウ　一般的ニ言ヘハ遠距離デノ戰車防止ノ為ニハ軽砲之レニ任シ比較的近距離デノ戰車防止ハ對戰車火器ヲ以テスルノカ普通テアラウ　對戰車火器ノ装備カ十分テナイナラバ何ウシテモ砲兵ヲ對戰車防禦ニ使用スルコトヽナルノデアルカラ努メテ十分ナ對戰車砲ヲ装備シ砲兵トシテハ砲兵本來ノ任務ヲ遂行サセル様ニスヘキテアル

對戰車防禦兵器トシテ希望セラルヽモノハ完全ナ戰車デハナイカ前方ヲ十分敵火ニ對シ掩護セラレ側方及後方ハ概ネ破片ニ對シテ掩護セラレタ自走式ノ威力アル砲デアル此ノ考ヲ擴張スルト結局戰車ニ對シテハ戰車ヲ向ケルト云フコトニナル

實際ニ於テ敵ノ戰車ノ攻擊ヲ自己ノ戰車テ破碎スルコトハ必要テアリ特ニ防禦戰ニ於テ然リテアツテ佛軍及蘇軍デハ右ノ様ナ見解ヲ取

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ツテキル様テアル　然シ之レラハ事實ニ於テハ經濟上ノ問題モアツテ數ノ制限ヲ受ケル、又對戰車火器ノ使用ヲ有利トスル場合カ多々アルノテ對戰車砲ノ必要價値ヲ減少スル理由トハナラナイノミナラス隣邦軍ノ實情ヨリシテ各種對戰車火器ノ至急增强ヲ緊要トスル

三、對戰車火器ノ種類

現在艦船ニ各種任務ノモノガアル様ニ戰車トシテモ將來各種ノ戰車カ出來ルコトヽ思ハレルガ現在ニ於テ戰車ヲ大別スルト二種類ニナル　卽チ輕裝甲快速戰車ト重裝甲戰車テアル從ツテ之レニ對シテ大別シテ二種類ノ對戰車砲カ必要トナルデアラウ

快速戰車ニ對シテハ彈丸ノ徹甲大威力ハイラナイガ發射速度ガ大デ其ノ集中彈ノ中ニ戰車ヲ捕促スル様ナ對戰車火器カ望マレルデアラウ然シ將來ハ大速度ノ戰車ト雖モ鋼板ノ耐彈抗力ハ大トナルノデ徹甲威力ノ大キナ卽チ口徑モ相當大キナ發射速度大ナルモノガ必要トナル又裝甲堅固ナ戰車ニ對シテハ唯一發ノ命中テ戰車ヲ使用不可能

0900

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ナラシムル様ナ威力ノアル砲彈ガ必要テ之ニ對シテハ相當ノ口徑ヲ持チ從ツテ單發ノモノトナルダラウ

歩兵ノ直接支援ヲ要シナイテ戰車ヲ敵陣深ク侵入攻擊セシメル方法ハ各国テ考ヘラレ研究サレテヰルガ其ノ結果トシテ此ノ様ナ戰車ノ突入ヲ阻止スル為ニ近距離戰車防禦兵器ノ縱深ニ亘ル區分カ益々必要トナツテ來ル　從ツテ此ノ縱深中比較的後方ニ配備スル對戰車火器ハ程度問題ハアルガ比較的大型ノモノデモ差支ナク且威力ヲ增大シ得ルコトヽナル

第一次世界大戰デ產ミ出サレタ三十七粍對戰車砲ハ輕戰車ノ様ナ薄弱ナ裝甲板ニ對シテ十分ニ效果ガアルケレトモ今日ノ優秀强固ナ鋼板ニ對シテハ唯近距離デノミ有效テアル鋼板ハ有ユル新型戰車テハ益々强固ニナツテ行クノデアルカラ現制ノ三十七粍砲ヨリ一層大威力ノモノヲ整備セナケレハナラヌ　即チ初速ト口徑トヲ增大セシメル必要カアル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

至近距離テノ戰車防禦ノ為ニハ小銃、機関銃モ使用スルコトハ勿論デアルケレトモ到底之レヲ以テ滿足シ得ラルヽモノテハナイカラ更ニ最前線ノ歩兵自体ニ戰車防禦力ヲ附与シテ精神的ニモ實效的ニモ戰車防止ノ自信ヲ持タセ且對戰車砲ノ防禦火網其ノ他ヲ漏過シタリ又ハ監視外カラ進入スル戰車トカ或ハ對戰車砲ガ破壞サレタ場合トカニ如何ナル戰車ヲモ直接防禦セシムル為機関銃ノ様ニ最前線ニ進出シ得テ且敵ニ對シ大キナ目標ヲ呈ヤナイ然モ一兵デ操用シウル對戰車火器ノ必要カアル　殊ニ敵砲兵ガ戰車攻擊ヲ支援スル場合戰車ノ攻擊目標ト其ノ後方ニ配置サレタ對戰車砲トノ中間ヲ砲兵火ヲ以テ阻絶シ又ハ對戰車砲ヲ制圧シタ場合前線ノ歩兵ノ固有火力ヲ強大ナラシムル為ニモ必要デアル、又此ノ火器ハ攻者ハ常ニ防者ノ反擊ヲ有效ニ防止スルタメ特ニ攻擊戰ニ必要テアラウ　即チ之レラノ為ニハ軽量ナ自動砲ヲ選フモノデアル、今次「ノモンハン」ノ戰闘テモ此ノ種ノ火器相當數アツタラ何レ程有利デアツタラウカ將來各国テハ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

此ノ種火器ヲ對戰車砲ノ補助的ニ裝備スルコト、ナルト考ヘラレル

第二項ニ述ベタ樣ニ對戰車砲トシテ某程度ノ裝甲ヲ有スル自走式火砲ヲ有スルコトハ望シイコトデ非常ニ重宝ニ使ラレルコト、思ハレル　又本砲ハ戰車攻擊ノ戰車ノ支援推進ニモ有效適切ニ使用シ得ラル、ノテアル

四　對戰車火器ノ選定

以上述ベタ處ハ徹甲威力ヲ基礎トシテキルケレトモ對戰車ノ效果トシテハ鋼板貫徹ニアラストモ履帶ノ破壞又ハ武裝ノ破壞ニヨル戰車戰斗力ノ破碎ヲ認ムルコトハ勿論デアルカ對戰車火器トシテハ大体ニ於テ徹甲威力ヲ以テ火器選定ノ基礎トナスベキテアラウ　今以上ニ基キ希望スル對戰車火器ヲ擧ケテ見ルコト、スル

普通ノ對戰車砲トシテハ次ノ條件ヲ具備セナケレハナラヌ

(イ) 一、〇〇〇米以内テハ中戰車ノ如何ナル裝甲板モ直角方向ノ射擊デ貫通シ得ナケレハナラヌ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(ロ)彈丸ハ適當ナ爆藥量ヲ有シテ戰車内ノ人員器材ニ重大ナ損傷ヲ与ヘ得ナケレハナラヌ

(ハ)射擊ハ迅速テナケレハナラヌ　然シ高射機関砲ノ様ナ發射速度ハ必須トハヤラレナイ又方向射界モ大テ目標ニ追隨シ得ナケレハナラヌ

(二)火砲ハ小型テ敵ニ對スル目標カ小サク取扱運搬ガ容易テナケレバナラヌ

現在各国ノ中戰車ノ装甲板ノ厚サヲ見ルト最大厚テ二五粍カ最モ多ク使ハレテヰルカ三〇粍厚ノモノモアルノデアル將來デハ最大装甲部ハ三五粍ニ到達シウル可能性ガアルト認メラレル　從ツテ將來ノ戰車装甲板ノ發達ヲ豫想シテ現今テノ最優秀鋼板三五粍厚サノモノヲ一〇〇〇米テ射貫スルコトヲ主条件トスル對戰車砲ヲ選ベハ次ノ様ナモノトナル

口径　約四七粍

0904

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

彈量	約一、七〇〇瓩
彈種	徹甲彈
初速	約八〇〇米
發射機構	半自動式
發射速度	約二五發/分
方向射界	六〇度（開脚式）
高低射界	負五度～正二〇度
放列砲車重量	約六五〇瓩（車体發条ヲ附シ「パンクレス」車輪ヲ用ヰテ約七五〇瓩）
運動性	牽引ハ小型牽引車ヲ主体トシ馬匹ヲモ使用シウル、又必要ニ際シテハ臂力移動困難ナラサルコト（小型前車ヲ附スルコトアリ）

更ニ厚イ鋼板ニ對シテ四十七粍級ヨリモ大ナル口径ヲ必要トスルテアラウ然シ六〇粍級口径ト雖モ軽野砲級ノ形体トナルノミナラス特

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

別ナ此ノ種火砲ヲ多數製作スルヨリモ寧ロ師團輕砲兵ノ數ヲ增シテ之レニ當ラシメタ方ガ得策テアラウ　卽チ對戰車砲トシテ野砲ヲソノマヽ若シクハ改造型トシテ利用スルコトガ得策テアル

現制三十七粍砲ハ形体小、運動容易デアルノテ四十七粍砲ヨリモ第一線ニ近ク進出シ有效ニ使用セラレ得ルデアラウ　前ニ述ヘタ樣ニ快速戰車ト雖モ裝甲抗力カ益々大トナルカラ自動砲式ノ集中彈中ニ之レヲ捕促スル對戰車砲ノ口徑モ相當大キクナケレハナラヌ然シ其ノ形態、重量共ニ大トナルカラ三十七粍級ニ止マルテアラウ　此ノ要求ニ對スル火砲ノ諸元ヲ擧ケルト次ノ樣ナモノトナラウ

口徑	三七粍
彈量	約〇、七〇〇瓩
初速	約八〇〇米
高低射界	負一〇度～正二〇度
方向射界	成ルヘク大

0906

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

發射機構　自動式

放列重量　約一、〇〇〇瓩

運動樣式　機械牽引

對戰車自動砲トシテハ一名ノ兵テ操作サレ且四（一五）〇〇米ノ距離テ軽戰車ニ對シ十分ナ效力ヲ有スル必要ガアル英軍ノ自動砲ハ一四粍テアルガ之レテハ威力ガ不足スルノテ「ソロターン」S社製一八型二〇粍對戰車砲ノ如キモノガ最適ト考ヘラレル其ノ諸元ハ次ノ樣デアル即チ現制式ノ九七式自動砲ヲ以テ滿足セラルヘシ

口径　二〇粍

弾量　〇、一五〇瓩

弾種　徹甲弾

初速　約七五〇米

重量　約五〇瓩

發射機構　單發

0907

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

對戰車攻擊ノ任務ヲ有スル自走式火砲トシテハ次ノ諸元ノモノヲ希望スル

火砲トシテハ野砲程度トシ車台ハ九七式中戰車ニ準ス

即チ次ノ如キモノテアル

口径	七・五粍
彈量	約六、〇〇〇瓩
初速	約六八〇米
方向射界	約六〇度
高低射界	負一〇度～正二〇度
射程	射角五度ニテ約四、五〇〇米
全備重量	約一八瓩
防楯	前方二五粍、側方二〇粍、上方、後方一〇粍

五、結言

以上ニ述ヘタ對戰車火器ノ中ノ主体テアル四七級對戰車砲、三七粍

0908

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

對戰車砲及對戰車自動砲ノ三者ノ使用區分トシテハ自ラ明カデアル
様ニ四七粍ハ對戰車砲ノ縱深配備中比較的後方ニ、三七粍ハ比較的前
方ニ配置シ對戰車銃ハ第一線ノ歩兵火線中ニ使用スルコトヽナル
国軍トシテハ現制三十七粍砲ノ外ニ四七粍級對戰車砲及對戰車自動
砲ハ是非裝備スル必要カアルト考ヘル

○　三七粍級機関砲モ希求スル處デアルケレドモ經済上並製造能力
ノ問題ガアルノデ出來得レバ保有シ度イケレトモ二次的ノモノト考
ヘテヨロシイ

重裝甲ノモノニ對シテハ野砲ヲ其儘若シクハ改造シテ對戰車砲トシ
テ利用スルコトハ目下ノ皇軍トシテハ必要デアル　自走式火砲ハ經
済上ノ関係モアルノデ今遽カニ多數整備ト云フコトハ出來ナイテア
ラウケレドモ少數デモヨイカラ是非製作シテ置ク必要カアルト考ヘ
ル而シテ漸次野砲ニ代ツテ整備セラレナケレハナラヌ

以上各種ノ對戰車砲ヲ擧ケタケレドモ今次大戰ニ於ケル独軍ノ如ク

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

重戰車ノ大群ノ進出ニ對シテハ對戰車砲ノミヲ以テシテハ不十分ナ場合カ多カラウト思ハレル從テ師團内ノ諸火砲ハ對戰車射擊ニ關シ從來以上ニ眞劍ニ研究ヲ要スル、將來戰法乃至戰車ノ用法ガ変ツテクルト之ニ伴ヒ以上述ベタ對戰車火器ノ体系ニツイテモ再檢討ヲ要スルコトハ勿論デアル

0910

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp